

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 22

Art Blakey【アート・ブレイキー】

～ファンキー・ジャズ・ブームを巻き起こした怒涛のジャズ・ドラマー～



写真提供：コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社

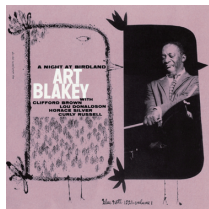
Profile

1919年10月11日、米国ペンシルベニア州ピッツバーグに生まれる。本名はアーサー・ブレイキー。48年にポリリズム・ドラムを学ぶためにアフリカに訪れ、その際にイスラム名である別名 Abdullah Ibn Buhaina を付ける。10代の頃はバンドでピアニストとして活動。その後、37年にマリー・ルー・ウィリアムス(p)のバンドにドラマーとして加入し、42年頃ニューヨークに進出。42～43年にかけてフレッチャー・ヘンダーソン楽団のツアーに参加。その後、44～47年までビリー・エクスタイン楽団で腕を磨くと共に、チャーリー・パーカー(as)、ファッツ・ナバロ(tp)、デクスター・ゴードン(ts)等と共演。マイルス・デイビス(tp)やセロニアス・モンク(p)等のレコーディングにも参加するなど、モダン・ジャズ全盛期にドラマーとして第一線で活躍。54年にジャズ・メッセンジャーズの前身となる自身のバンドで「バードランド」に出演し、ファンキーなサウンドで大反響を得る。そして翌55年にホレス・シルヴァー(p)と初代ジャズ・メッセンジャーズを結成。56年にホレス・シルヴァーが脱退した後も才能ある若手ミュージシャン達を起用して育てながら、最高のジャズ・コンボのリーダーとして晩年まで活躍。61年にジャズ・メッセンジャーズと共に初来日を果たし、以後も度々日本を訪れ、日本でもファンキー・ブームを巻き起こした。“雷神”“ナイアガラ瀑布”等と称され、別名であるブレイナから由来するブー(Bu)というニックネームでも親しまれた。派手でエキサイティングなドラム・スタイルで、マックス・ローチ等と共にジャズ・シーンにおけるドラムという楽器とドラマーという存在をメジャーに押し上げた功績は大きい。1990年10月16日、肺ガンのため死去。享年71歳。

AB's Great Album

ここに挙げた作品以外にも大ヒットを記録した『モーニン』や『ザ・ビッグ・ビート』『カ
フェ・ボヘミアのジャズ・メッセンジャーズ』など数え切れないほどの名盤があります。

嵐の前触れ〜ジャズ・メッセンジャーズ誕生前の歴史的ライヴ



バードランドの夜 Vol.1

アート・ブレイキー

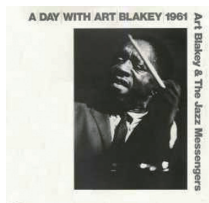
(EMI ミュージック・TOCJ-8510)

アート・ブレイキー (ds)、
クリフォード・ブラウン (tp)、
ルー・ドナルドソン (as)、
ホルス・シルヴァー (p)、
カーリー・ラッセル (b)

1. イントロデューシング by ビー・ウィー・マーケット
2. スプリット・キック
3. ワンス・イン・ア・ホワイ
4. クイックシルヴァー
5. チュニジアの夜
6. メイリー

1954年2月21日、5人の才能
溢れるジャズマンがバードランドのステージで
熱いバトルを繰り広げていた。バードランドの名物司
会者、ビー・ウィー・マーケットのメンバー紹介に続いて、
オープニングの「スプリット・キック」へ。素直にカッコイイ、凄
いパワーだ！ パーカー&ガレスピーを思わせるドナルドソンとブ
ラウンの強力フロントライン、ピアノはミスター・ファンキーのシル
ヴァー。ブレイキーとバンドのリズムを支えるラッセルの重厚なベ
ース。グイグイと熱くバンドをヒート・アップさせる5人の演奏
により、ハード・バップの夜明けが始まった。そして、翌
55年ブレイキーとシルヴァーによって“ジャズ・メッ
センジャーズ”が正式に誕生。こんな凄いラ
イヴ、生で聴いてみたかった。

ジャズ・メッセンジャーズ初来日の記録を収めた一枚！



ライブ・イン・ジャパン〜1961

アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

(M&I:MYCJ-30149 *現在廃盤)

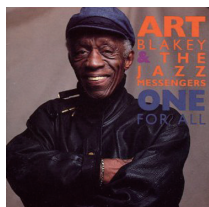
アート・ブレイキー (ds)、
リー・モーガン (tp)、
ウェイン・ショーター (ts)、
ボビー・ティモンズ (p)、
ジミー・メリット (b)

- [Disc-1] 1. ザ・サミット 2. そよ風と私 3. ブルース・マーチ
4. モーニン 5. ペイパー・ムーン

- [Disc-2] 1. ネリー・ブレイ 2. ダット・デア
3. ラウンド・アバウト・ミッドナイト 4. チュニジアの夜

1961年1月2日、「東京サンケイ・
ホール」で行われたアート・ブレイキー & ザ・
ジャズ・メッセンジャーズの初来日コンサートの模様を
収められた作品。若干22歳のリー・モーガンのラップ。バ
ンドのミュージカル・ディレクターに起用された若きウェイン・シ
ョーターのテナー。クールでファンキーなボビー・ティモンズのピ
アノ。真っ黒なジミー・メリットのベース。そして、最初から最後まで
ハイテンションで怒涛のリズムを刻み続けるリーダーのアート・ブ
レイキー。5つの個性が光り輝き、当時ファンキー・ジャズ・ブ
ーム真っ只中の人気 No.1 コンボの最高の演奏が詰まっ
ている。当時モダン・ジャズ・グループがリアルタイム
で来日することは珍しく、当然の如く大きな話
題 & 大ブームを巻き起こした。

アート・ブレイキーの最後のアルバム



ワン・フォー・オール

アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

(ユニバーサル・ミュージック:POCM-5045)

アート・ブレイキー (ds)、
ブライアン・リンチ (tp)、
ジャヴオン・ジャクソン (ts)、
スティーヴ・デイヴィス (tb)、
ジェフ・キーザー (p)、他

1. ヒア・ウィ・ゴー
2. ワン・フォー・オール
3. ペニーのテーマ
4. ユーヴ・チェンジド
5. アクシデンタリー・ユアーズ
6. メドレー: マイ・
リトル・ブラウン・ブック〜ブレイム・イット・オン・マイ・ユース〜
イット・クッド・ハヴン・トゥ・ユー (他、全12曲)

録音は1990年4月。70歳を迎
えたアート・ブレイキーが亡くなる約半年前
にレコーディングされたアート・ブレイキー、そして、ザ・
ジャズ・メッセンジャーズにとってのラスト・アルバム。若
き日のブライアン・リンチ (tp)、ジャヴオン・ジャクソン (ts)、
ジェフ・キーザー (p)、エシエット・エシエット (b) 等の熱のこもった
プレイも素晴らしい、オープニングの「ヒア・ウィ・ゴー」、マイ・
リトル・ブラウン・ブック〜ブレイム・イット・オン・マイ・ユース〜
イット・クッド・ハヴン・トゥ・ユー」のメドレーやラストを飾る「ニ
カズ・テンポ」等、1955年の結成以来活きの良い若手ミュ
ージシャン達を従え走り続けてきた名バンド・リーダ
ー & 名ドラマー、アート・ブレイキーの最後の
演奏に思わず目頭が熱くなる…。

ジャズ・メッセンジャーズ

マイルス・デイビスのクインテットや晩年のグループと並んで、
アート・ブレイキーの“ジャズ・メッセンジャーズ”は、優れ
た若手ジャズマンたちの登竜門だった。“ジャズ・メッセン
ジャーズ”の前身メンバーだったクリフォード・ブラウンを筆頭に、
リー・モーガン、ウェイン・ショーター、ボビー・ティモンズ、
フレディー・ハバード、ウィントン・マルサリス、ブランフォード
・マルサリス、テレンス・ブランチード、マルグリュー・ミ
ラー等が在籍し、特にトランペッターの存在が目立つが、ブ
レイキーにスカウトされてその後大スターへの道を辿った門下
生の顔ぶれは、マイルスのそれと全く引けを取らないほど豪
華だ。そして、長年モダン・ジャズ・シーンを引っ張り続け
たその存在感と功績は計り知れない。「モーニン」「ブルス・
マーチ」等に代表される名演の数々〜恍惚の表情を浮かべ
ながら、小さな体で太鼓と格闘するその姿には華があった。

エブリン・ブレイキー

アート・ブレイキーにはプロの歌手として活躍していた娘がいた。
長女で名前はエブリン (Evelyn Blakey)。メッセンジャ
ーズにも在籍し来日も果たすなど、ソウルフルなヴォーカルに
は定評があったが、2007年8月に69歳でこの世を去ってる。

大の親日家

アート・ブレイキーは1961年にジャズ・メッセンジャーズと
共に初来日を果たし、以降も度々日本を訪れていた。ステー
ジでも「Ugetsu (雨月)」「On The Ginza (オン・ザ・ギン
ザ)」といった日本をテーマにした曲を好んで演奏したり、70
年代には鈴木勲 (b) や鈴木良雄 (b) をジャズ・メッセンジャ
ーズのメンバーとして迎え入れるなど、大の親日家としても知ら
れている。また、私生活では奥さんの一人も日本人だった。